©中日新聞東海本社2024

中古の車載電池 ベンチ照らす

使用済みでも「まだまだ優秀」

市販化へスズキ協力

スズキ車で使用済みとなった車載電池が、屋外のベンチを照らす発光ダイオード（ＬＥＤ）照明などの電源として再利用されている。建材メーカーのフクビ化学工業（福井市）など３社が共同開発し、2025年度中の市販化を目指して裾野市内で実証実験中。ハイブリッド車（ＨＶ）や電気自動車（ＥＶ）の中古電池を活用する方法の一つとして期待される。（斎藤航輝）

スズキ車の使用済み電池を再利用して開発されたベンチ＝裾野市で（斎藤航輝撮影）

スズキが燃費向上を掲げて車両に搭載したシステム「エネチャージ」などに使われた電池を再利用。長いもので10～15年の使用歴がある。ベンチの座面の下の密封容器に軽自動車24台分を収納し、仮に発火しても外に燃え広がらない工夫を施してあるという。

現在は市販化に向け、裾野市のフクビ化学工業グループ会社の敷地で電池の消耗具合や交換時期などのデータを収集している。担当者は「公園や学校のほか、広場など電気が通っていないところでも使える」と利便性をアピールした。

今後はＨＶやＥＶの普及拡大に伴い、使用済みとなる電池も大幅に増える見通しだ。大手コンサルの米マッキンゼー・アンド・カンパニーの予測によると、世界でリサイクルされる車載電池は20年には5万㌧だったが、30年に185万㌧、40年に2050万㌧へと急増するという。

一方で車載電池は、絶え間なく充放電する過酷な自動車用としての役割を終えても、照明などの負荷が低い用途では十分な性能を発揮できる。キャプテックスの担当者は「今回のベンチのように、充放電の頻度や電力消費を抑えた使用方法なら、まだまだ電池として優秀」と評価。使用済みの車載電池について「この数年で一気に市場に出回る。廃棄前に新しく生まれ変わらせて電池の寿命を全うさせたい」と訴えた。

3社はほかに、電池製品の開発を手がけるキャプテックス（愛知県岡崎市）と化学系商社の長瀬産業（東京）。複数社の車載電池を比較したところ、スズキ車のリチウムイオン電池の寿命が長いことを確認したという。電池の確保に際してスズキの協力も得た。

上 電池が収納される鉄製の箱＝裾野市で（斎藤航輝撮影）
下 ベンチ座面の下に収納する再利用品の電池＝フクビ化学工業提供

中日新聞
中日新聞東海本社
浜松市中央区薬新町45番地
〒435-8555 電話 053(421)7711
しずおか